【中学校　作文　優秀賞】

戦　争

沖縄尚学高等学校附属中学校　二年
川平　真希

戦争について戦争体験者の方に話をして頂くと、たくさんの事を教えて頂くのですが、どの方のお話にも一つの共通点があります。それは、「もう二度と起こって欲しくない」ということです。

当然と言えばそうなのかもしれません。ですが、最近の小学生や中学生、高校生など若い世代の人達の中に、戦争を肯定するような意見を持つ人がいるのです。インターネット上で「今の世の中はつまらない。戦争とかあったら良いのに」「何故戦争はいけないのか。あっても良いと思う」「戦争は最高の娯楽」「今の平和ボケした人間に良い刺激」等々、少数ではあるとは思いますが、そういった意見が実際に文章として掲載されていたのを見た事もあります。

初めてそういった意見を目にした時は、私はとてもショックを受けました。考える事は自由だけど、まさかそんな考えを持ち、実際にネット上に掲載するような人がいるとは思っていませんでした。

これは、やはり戦争に対する知識の低下、そして平和へのありがたみが薄れている証拠ではないでしょうか。

小学校の平和学習の時、実際に戦争体験者の方にお話を伺いました。その中に、

「戦争の話なんて思い出したくもないし、あんた達に聞かせたくない。あんな事、知る必要なんかない」

と仰った方が居ました。戦争とはそれ程恐ろしく、悲しいものなのだと改めて実感し、また体験した方々がそれを口にするのはとても辛い事なのだと感じました。しかし、それと同時に、辛さを耐えて、戦争の事を伝えて下さる方へとても感謝しました。

何故なら、そういった方達が居るおかげで私達は戦争について知る事ができるからです。

実際に戦争を体験した方にしか、戦争の恐ろしさは分からないと思います。

終戦から六十五年が経った現在、お亡くなりになられた戦争体験者の方も多く、私たちに戦争の恐ろしさを伝えてくえる存在は減り、それに比例するかのように、平和に文句を言う戦争を否定しない人間や肯定までする人間が現れつつあります。

私は、昔日本で唯一地上戦が行われた沖縄に生まれ、戦争について学ぶ機会も多く、資料館なども何度か行きました。そのせいか私は、また私の周りの人たちの中では戦争が起これば良い、という意見を聞いた事はありません。ネット上に戦争肯定意見を書いた人たちも、もしかしたら冗談なのかもしれませんが、幼い頃から学んでいれば例え冗談でもそんな事は書けなくなると思

います。

今は平和なのだから恐い思いなんて知らなくても良い、といった考えをもつ人も居るかもしれません。それが正しいのか間違っているのかは分かりませんが、少なくとも私は、日本が平和であるためには、戦争を忘れていけないと思います。戦争の恐ろしさを忘れてしまえば、平和への感謝の気持ちが薄れます。平和への感謝を忘れてしまえば、あのネット上の書き込みのように戦争を娯楽や刺激と勘違いし、軽々しく戦争肯定の空気を作ってしまうような人たちが出てきます。

戦争についていろいろな意見がありますが、私は体験した人の言葉に一番重みがあると思います。だから、「もう二度と起こって欲しくない」という言葉を守るためにも、平和を当然として戦争を忘れるのではなく、戦争の恐ろしさを忘れず平和への感謝も忘れないようにしたいです。

戦争の恐ろしさを伝えてくれる存在があり、私たちがそれを知って初めて平和があるのだと思います。

日本は平和です。例えネット上に戦争を肯定するような書き込みがあっても、それはごく少数のものです。国内でいろいろと事件・事故はあり、少なからず問題があるとしても、いま現在の日本は平和です。

しかし、第一次世界大戦や第二次世界大戦ほどではないにしろ、西アジアなど各地域では紛争が絶えずテロなども起こっています。また、飢餓や貧困、差別など、世界全体で見るとまだ平和と言えるものではなく、深刻な問題を多く抱えています。

日本は平和です。しかし世界はそうではありません。また、今戦争が起こって核爆弾が使われれば地球など簡単に消えてしまうと言われています。

日本は平和だからこそ、平和に驕らず、世界と共に歩を進めなければならないのだと思います。